

石クリ通信

6月号

可愛い顔した悪魔

近所を散歩中、悪魔に取り憑かれたバス停を発見！わかりますかね？？バス停の影に注目です☆弱そうな悪魔です。影によって太陽の位置によって思わぬ形に変身するから面白い！



事務 森 絵里子

酒飲み道具



事務 久保 直子

自宅でお酒を飲む時に、よく使う道具があります。それは「アイスクラッシャー」水を細かく砕く道具です。電動と手動のものがあり、私は手動のものを好みます。☆グラスにぎゅっと砕いた氷（クラッシャーアイス）を入れて、ウイスキーや梅酒などを頂きます。氷が細かいのでお酒を注ぐと程よく溶けて冷やされ、ストリートやロックより飲み易くなります。☆アイスクラッシャー☆お気に入りの酒飲み道具です！

初めての新鮮線



看護助手

柴田 さち子

今まで新鮮線に一度も乗った事がありませんでしたが、今回浜松で行われる泌尿器学会に行くために初めて乗りました。車内から見るとスピードは特急と変わりないと感じましたがホームで新鮮線の通過を見た時は、想像以上の音の大きさと速さにとて驚きました。若い方と一緒に浜松城に行きましょ！足手まといにならないように頑張ってください。宿泊したホテルは45階建てのオークラクトシティホテル浜松。私達の部屋は34階。（写真は部屋からの眺め）大好きな重なり、大満足です。

4つの石

看護師 高山 早苗

4月に主人が胆石の手術をしました。1年前の3月、激痛におそれ、しかし治まった様子を見ていた後、ちょうど1年後の3月、再びその激痛は主人をおそいました。その後不安の中なんとか予定の4月まで持ちこたえ、のぞんだ手術でしたが、終わって主治医の先生が見せてくれたのはシャレの中の赤黒いべろーとした胆嚢と4つの胆石でした。こんなのがあったらどんなに痛いと思うような大きな、形の石でした。胆石は紀元前1500〜1600年頃のミイラからも発見されており昔からある病気なのだそう。昔は少なかつた病気ですが、現在日本では成人の十人に一人は胆石をもっているそうです。食生活の変化とともに年々増加傾向にあるそうです。胆石の痛みは食事に左右されるといっても過言ではなく、食事に気を遣うだけで痛みは起こらないようにできるのです。もし胆石をもっているあなた、魚介類や食物繊維を多くとり脂っこい食事を避ければ、痛みは回避できるそうですよ。

日本老年泌尿器学会に参加して

看護師 澤田 彰子

先月浜松で行われた日本老年泌尿器学会に参加してきました。今回のテーマは「高齢者のQOLとSOL」でした。超高齢化社会に向かっている中で、健康寿命をいかにして上げていくか？他の病院や施設、地域での様々な報告がありました。クリニックでも参考になることが幾つかありました。学会に参加して、高齢者の「生活の質」と「人の尊厳」について再考するよい機会になりました。

解説編 その三

薬剤師 石川 恵

だいたい夏が近づいて参りましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。ちなみに私は凄まじい方向音痴なのですが、何故か道を尋ねられることが多いです。犬の散歩中はまだわかるにしても、最近は東京で外国の方に英語で尋ねられる始末。こんなにも迷い人オーラを全身に纏っているのに何故でしょう。隙だらけで話しかけやすいのでしょうか。・とまあそれはさておき、まだまだ続く若者言葉豆知識。「フラグ」・・・これは元はあるジャンルのゲーム用語で、私は経験がないのですが、え〜どうも「ある結末に達するための行動や言動を行う事」を、「フラグが立つ」と言うようです。（「フラグ」とは本来「旗」という意味です）まあわかりやすい例えだと、孤立した洋館で起きた殺人事件・・・次の犠牲者が出ないようにと、全員が大広間に集まる。そこで一人が「この中に殺人犯がいるかもしれないんだろ！？」と冗談じゃない、僕は自分の部屋に帰らせてもらおう！・・・はい、これは死亡フラグが立つ台詞（ほぼ次の犠牲者確定）です（笑）

アマデイス弦楽四重奏団のこと

院長 石川 悟

信大OBら弦楽四重奏団 40周年記念のコンサート

日立市立と、学友会会館に、4日は信大交響楽団OBの加わって大規模なコンサートが行われ、約100名が参加した。アマデイス弦楽四重奏団は、平成40年に結成された。結成後、2年連続3回のコンサートを開催し、今年も「アマデイス」をテーマにした。アマデイスは、モーツァルトの「魔笛」の音楽をモチーフにした。アマデイスは、モーツァルトの「魔笛」の音楽をモチーフにした。アマデイスは、モーツァルトの「魔笛」の音楽をモチーフにした。

楽器博物館

浜松の学会に行つた折に、浜松市楽器博物館に行つてみました。さすがに楽器メーカーの本拠地だけあって、世界のあらゆる地域の古代から現代に至るまでの楽器が集結し、人類の古今東西の音楽史を一度に学ぶことができます。

特筆すべきは、展示された楽器の（民族）音楽が、ほぼ総て映像と音楽で鑑賞できることで、ホールに所狭しと並べられたガムランの演奏などは何度見ても飽きず、午前中の予定が夕方になつてもまだまだ見尽くせないまま、後ろ髪を引かれる思いで後になりました。人が喜怒哀楽や畏怖の念などを表現するために、さまざまな自然物の形を利用し、動物の皮を張つて太鼓にしたり、植物の弦を爪弾いたり・・・と工夫をこらして楽器を作り上げてきた軌跡は、人類の壮大な宗教文化史を辿っているように感じました。

そのまゝ裏側に張り付けた南米の（マンドリンに似た）楽器などがありました。最も驚いたのは、人間の頭骸骨の後ろ半分を二つ背合わせにして両側に人の皮膚を張つたチベット風の宗教儀式的楽器でした。人類の文化の多様性を改めて感じた貴重なひとときでした。

アマデイス弦楽四重奏団のこと

（信濃毎日新聞5月5日朝刊に記事が出ました）。「アマデイス」を名付けたカルテットです。松本で3回演奏会を行った後、住まいや勤務の関係で解散、二十年近く前にふたたび活動を再開しました。「安心して聴ける」レベルの演奏はなかなか難しいのですが、ヤナーチェクやショスタコビッチなど難曲に挑戦しています。来年度5月には当クリニックでも演奏を行う予定です。どうぞご期待ください。